

外為短観レビュー ミセスワタナベVSヘッジファンド

◆はじめに

今回の外為短観レビューでは、今年これまでの米ドル/円相場において、我が国の個人投資家と海外投機筋がそれぞれどのような投資行動を取ってきたのかを比較しつつ、今後の行動を占うとともに相場展開を読む手掛かりの一つとしてみたい。

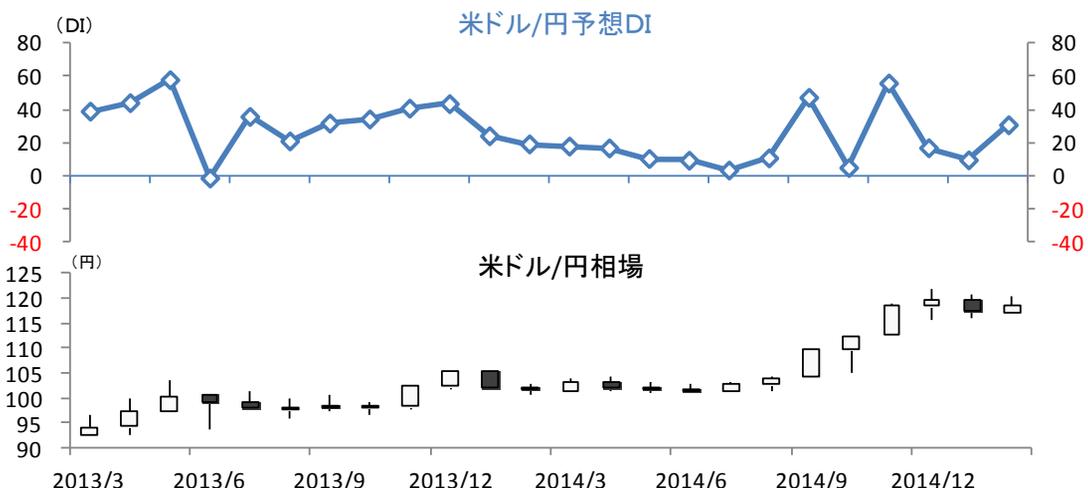
◆2015年の米ドル/円相場

米ドル/円相場は、今年に入ると下値試しの動きが先行。原油安を引鉄とする世界的な低インフレへの懸念などから株式市場が弱含む中、1月16日には一時115.80円台まで差し込む場面があった。2月に入ると、原油安が一服して株価が反発した一方、ギリシャの債務不安が再燃した事などから、概ね117円-120円でレンジ色の強い相場展開となった。そして、3月に入ると米国の早期利上げが意識され始めたためドル高が進み、10

日には122.022円まで上昇して昨年12月高値を更新し、約7年8カ月ぶりの高値を付けた。

◆本邦個人投資家はドル強気見通しを維持

足元3カ月(2014年12月から2015年2月)のドル/円予想DIは+16.9%ポイント、+9.6%ポイント、+30.7%ポイントとなっており、個人投資家が、米ドル強気・円弱気見通しを維持していた事(月毎の強弱の差こそあれ)を示している。また、予想DIはこれまで20カ月連続でプラスとなっており、この間のポジション比率(各営業日のNYクローズ時点における買いポジション残高と売りポジション残高の比率)は、一度も米ドル売り超になった事がない。そうした「ミセスワタナベ」の行動を、外国為替市場の売買主体では最大勢力と考えられる海外投機筋と比較して見ると、大きな相違点がある事に気付く。



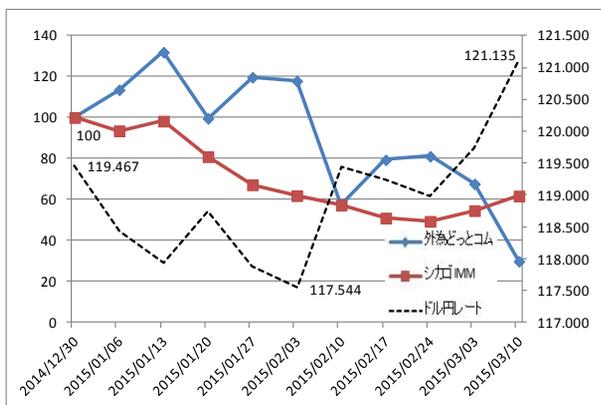
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

◆ポジション残高推移の比較

下記グラフは、米ドル/円相場と、外為どっとコム顧客及びシカゴ国際通貨先物市場(IMM)における投機筋の米ドルに対する円売りポジション残高(いずれもネットベース)をひとつにまとめたものである。IMMの残高は週に一度しか(毎週火曜日時点)公表されないため、他もこれに倣い火曜終了時のデータを抽出してグラフ化した。本邦個人投資家の総称である「ミセスワタナベ」は1月から2月前半にかけて米ドル/円が弱含んだ局面で買いに動いた一方、2月中旬以降の反発局面では、米ドル売り・円買いに動いている。一方で海外投機筋の代名詞である「ヘッジファンド」は、相場動向にかかわらず2月までは米ドル売り・円買いに動いていたが、3月に入ると米ドル買い・円売りに動き始めている。

ポジション残高推移と米ドル/円相場

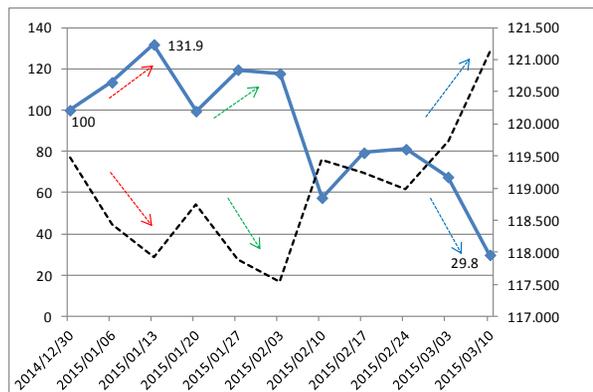


- ・各ポジションはLONG(買い残)からSHORT(売り残)を引いたネットベース
- ・2014年12月30日時点のデータを100として指数化
- ・ドル/円は当該日のNYクローズレート

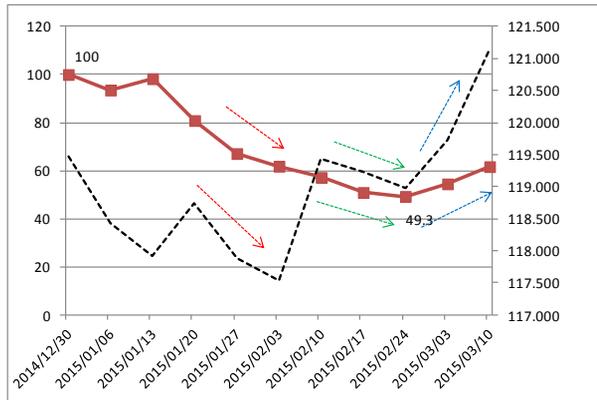
◆「逆張り」VS「順張り」

1-2月は「ヘッジファンド」の米ドル売りに「ミセスワタナベ」が買い向かった一方、3月以降は「ヘッジファンド」の米ドル買いに「ミセスワタナベ」が食い売りぶつた様にも映る。下の二つのグラフは、「ミセスワタナベ」のポジション及び「ヘッジファンド」のポジションの推移を、それぞれ左下のグラフから抜き出して米ドル/円相場の推移と比較したもののだが、「ミセスワタナベ」は相場が下落すると買い残高を増やし、相場の反発局面で買い残高を減らしており、逆張りのな売買を

本邦個人投資家ポジション残高推移と米ドル/円相場



海外投機筋ポジション残高推移と米ドル/円相場

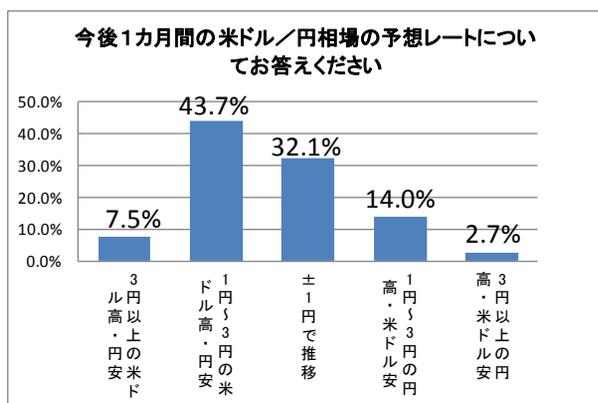


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

行っている事がわかる。一方で、「ヘッジファンド」が順張りに見えるのは、買い残高を減らす(米ドル売り・円買いに動く)と相場が下落しやすく、反対に買い残高を増やすと上昇しやすいという点も影響しているのだろう。売買規模が大きい故に相場のリード役になる事が多い「ヘッジファンド」の宿命と言えるかもしれない。そうした取引の量的規模＝相場動向への影響度の面で「ヘッジファンド」に及ばない「ミセスワタナベ」が、逆張りのな売買に動きがちなのはある意味で当然なのかもしれない。特に、レンジ相場においては逆張り戦略が威力を発揮する事は間違いない。「ミセスワタナベ」が、米ドル高・円安見通しを維持しながら3月以降に米ドル売りを強めたのは、まさにこのレンジ相場を意識したためであろう。

◆ミセスワタナベの米ドル/円予想レンジ

2月外為短観で「ミセスワタナベ」が予想した今後1カ月の米ドル/円のレート推移では、マイナス



- ・2月外為短観(調査期間:2/10-2/17)より
- ・調査期間中の米ドル/円相場は118.219-120.477円で推移

1円からプラス3円に回答が集中した。調査期間中の米ドル/円の平均レート(終値ベース)が119.220円であった事から「ミセスワタナベ」のコア予想レンジは118円前後から122円前後であったと推測できる。この点から見ると、2月外為短観で米ドル高・円安予想を強めていたにもかかわらず、3月入り後の上昇局面で米ドル売り・円買いに動いた行動も頷ける。

◆押し目買い余力大

3月18日の米FOMC後に米ドル/円相場が119円台前半へ下落した際、この日の外為どっとコム顧客のポジションは米ドル買い残高が前日比22.5%も増加した。それでもその残高は、過去最大を記録した2014年6月末の半分をわずかに越えた過ぎない。「ミセスワタナベ」の押し目買い余力は大きいと考えるべきだろう。もし今後、米ドル/円相場が118円前後まで下落する場面があれば、その過程で「ミセスワタナベ」が逆張りに米ドル買いに動く可能性が極めて高いと思われる。その分だけ相場下落スピードはゆっくりとしたものになるだろう。(了)

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com